

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：令和3年9月3日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：黒川長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから9月3日の原子力規制庁定例ブリーフィングを始めます。

○黒川総務課長 報道官の黒川です。

お手元の広報日程に沿いまして、説明をいたします。

まず、1ページのほう、9月7日の（3）第1001回審査会合であります。

こちらは、大山生竹テフラの関係の設計工事計画と保安規定の認可についてということになります。対象となる美浜、高浜、大飯の発電所について、7月1日に認可申請がありましたので、それについての今回が初会合ということになります。

裏に参りまして、9月9日の（6）第49回技術情報検討会です。

議題は3つあります。

議題1は放射線防護に関する知見ということで、普段見ないちょっと珍しい議題になりますけれども、屋内退避の効果に関する研究結果が出ましたので、それを報告するというものであります。

議題2は、定例の研究等から得られた最新知見ということで、今回は自然ハザード関係はなくて、自然ハザード以外の3つの調査・研究の結果が報告されます。

議題3、これも定例の事故・トラブル情報ということで、今回、新たに1次スクリーニングにかかるものについては特に重要なものはないと聞いております。

次、9月10日の（7）第1002回審査会合です。

こちらは伊方の標準応答スペクトルの件ということになりまして、今回、申請を受けての初会合となりますので、論点の提示などが行われる見込みとなっております。

こちらからは以上です。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けします。いつものとおり所属とお名前をおっしゃってから質問のほうをお願いいたします。

質問のある方は手を挙げてください。

では、ヒロエさん、お願いします。

○記者 共同通信のヒロエです。

今日の広報日程ではないのですけれども『Nature Geoscience』に産総研が房総沖でマグニチュード8.5の新しい地震の痕跡が九十九里にあったというような発表をしていたのですけれども、そういう地震に関する新しい知見について、規制委員会としてどのように知見に取り入れていって、東二（東海第二）が近いようですけれども、東二（東海第二）への影響とかどうやって対処していくかというあたりを教えてください。

○黒川総務課長 まさにその件についてどうかというのは、私も存じ上げていないですけれども、一般論で言えば新しい地震に関する知見が出れば、取り入れるかどうかを検討する、一般的にそうなると思います。ちょっとその件自体がどうなのかは私も分かりません。

○記者 取り入れていく検討会というのはどの部会であったり、技術情報検討会とかになるのでしょうか。

○黒川総務課長 知見の性質により変わってくると思いますけれども、技術情報検討会にかかるものもあるでしょうし、あるいは委員会にかかるものがあったり、それはそれぞれどういう知見かで扱いは変わってくるのだと思いますけれども、一般論として新しい自然ハザードに関する知見が出てくれば、それは取り入れるかどうかを検討するというのは、一般的にはそういうことだということです。

○記者 今回の産総研のものは次の技術情報検討会に入るとか、そういうことはまだなくて、当面先になったりする可能性がある。

○黒川総務課長 その件自体は私は全く知らないのですが、少なくとも今回書いてある技術情報検討会では自然ハザード関係はないのではないですけれども、その後どうなるか、それは分かりません。

○司会 ほかに御質問はございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。ありがとうございました。

—了—